

TOSHIBA

Leading Innovation >>>

FUTURE DESIGN

vol. **48**

安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする

2 0 1 6

特集 ● 交通と都市の未来形

日本のシルクロードを
探訪

近代日本を支えた、
幻の物流ルートを
探る

東芝エレベータ株式会社
TOSHIBA ELEVATOR AND BUILDING SYSTEMS CORPORATION

FUTURE DESIGN

vol. **48** 安全で快適なエレベーターの
未来をデザインする
2016

CONTENTS

- 03-09 特集●交通と都市の未来形
“日本のシルクロード”探訪
近代日本を支えた、
幻の物流ルートを探る
- 10-13 知ってるようで知らない!?
エレベーターの不思議
- 14-15 連載●お江戸の楽しい歩き方 第4回
神楽坂周辺
- 16-17 新連載●異国の目から見たニッポン
第1回 イスラエル編
イラン・ヤニツキーさん
- 18-19 連載●がんばる地方都市 第11回
青森県青森市
- 20 連載●おもて菓子 第7回
りんごのヴェール

【表紙解説】



2014年、群馬県の富岡製糸場が世界遺産に認定されました。富岡製糸場は、1872(明治5)年に建設された官営の模範工場で、ここで学んだ工女たちがその後、西洋の機械製糸技術を全国に伝えました。表紙の写真は、工場の敷地内にある東繭(まゆ)倉庫の2階で、ここに乾燥された繭が保管されました。西洋のレンガ積み技術と木で骨組みを組む日本の技術を組み合わせた建物で、倉庫1棟に最大で2500石(1石=約180ℓ)の繭を貯蔵できたといわれています。

(アンケートにご協力ください)

『FUTURE DESIGN』vol.48 に対するご感想をお寄せください。群馬県桐生市の「絹遊塾 工房風花」が一つひとつ丁寧に手づくりした行燈「繭いと灯り」を抽選で10名様にお送りします。

「繭いと灯り」は、「ぐんま黄金」という品種の蚕がつくる群馬のブランド繭を、桐生の焼き杉に座繰りでゆっくりと巻いた行燈で、温かさを感じる灯りとなっています。この行燈に「ぐんま黄金」の繭5個をセットにしてお送りします。



- 応募方法
同封のはがきまたはFAX用紙、E-mailでご意見をお送りください。
- 締め切り
2017年2月28日到着分まで有効。

東芝エレベータ株式会社 FUTURE DESIGN

vol.48 2016

2016年11月30日発行 発行 東芝エレベータ株式会社 広報室
〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
電話 (044) 331-7001
URL <http://www.toshiba-elevator.co.jp>
E-mail elevator@po.toshiba.co.jp

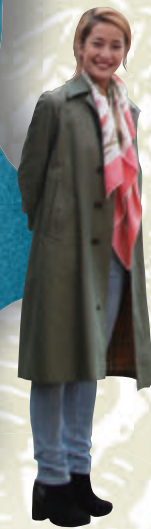
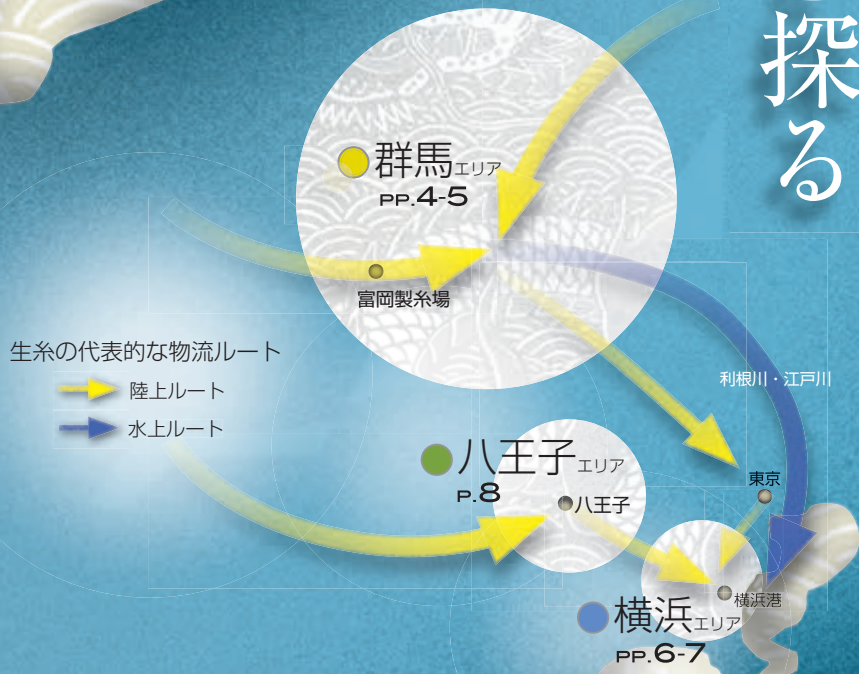
制作 有限会社イー・クラフト+有限会社ベル・プロダクション デザイン 手塚みゆき
印刷会社 株式会社メディア グラフィックス

特集 ● 交通と都市の未来形

日本のシルクロード探訪

近代日本を支えた、 幻の物流ルートを探る

明治前半の頃、生糸類は、日本を代表する輸出品目で、輸出額の4割以上を占めていた。
当時の代表的な生糸の産地は、奥州（東北地方）、上州（群馬県）、信州（長野県）の3つ。
これらで産出された生糸は、陸上・水上のシルクロードを通じて横浜港に集められ、アメリカ、フランスなどに輸出された。
今回の特集は、当時の生糸の代表的な物流ルートを探ってみた。



ティファニー春美
デュリンスキーさん

デジタルマーケッター&
トラベルレポーター

米国カリフォルニア州ロサンゼルスに拠点を置くデジタルマーケッターで、ライターの仕事のかたわら、モデルの仕事もしている。日本の文化に大きな関心を持ち、毎年夏は、東京在住の家族や友人といる探検している。英語、日本語、フランス語が堪能。



今回のナビゲーター

小泉 勝夫さん

こいずみ かつお

一般財団法人シルクセンター
国際貿易観光会館
シルク博物館 元専門員

1959年信州大学繊維学部卒業。
神奈川県畜産試験場、神奈川県農業総合研究所蚕糸検査場、一般財団法人シルクセンター国際貿易観光会館シルク博物館部長、同館専門員などを歴任した。著書は『開港とシルク貿易—蚕糸・絹業の近現代』など多数。

area 1
gunma

群馬エリア

近代日本の経済発展をリードした製糸業。特に高品質な生糸の産地、上州（群馬県）の中心となったのが、富岡製糸場だ。

生糸のふるさと、群馬を旅する

群馬は絹産業の一大集積地

「富岡製糸場に行った時、まず見てほしいのが東繭倉庫の入口アーチです。刻み込まれている明治五年という文字は、近代日本を支えた富岡製糸場が開設された年なんです」

そう熱く語るのは横浜シルク博物館で専門員を務めた小泉勝夫さん。今回は小泉さんの案内で、数多くある「日本のシルクロード」の一部をたどってみたい。

旅の起点は2014年に世界遺産に指定された富岡製糸場だ。明治初期、日本の主力輸出品目だった生糸の品質向上と増産を目指して設立された富岡製糸場には、西欧の機器が導入され、全国から集まった工女たちはフランス人ポール・ブリュナからは洋式の機械製糸技術を学んだ。製糸場のフル稼働を支えたのが群馬県西部にある荒船風穴をはじめとした蚕種貯蔵施設だ。当初、繭は年1回しか生産できなかったが、冷風



富岡製糸場



「フワフワします！」

撮影協力: 富岡市・富岡製糸場



薄暗い繭倉庫のなかでは、座繰りなどの繰糸が実演されていました。糸がすべて巻き取られるとグロテスクなサナギが出現。かわいい繭は、本当に虫がつくっているんだ。



撮影協力: 富岡市・富岡製糸場



ブリュナ館。富岡製糸場の開設と工女の教育にあたったポール・ブリュナの年俵は当時の政府の最高職より高額！立派な住宅は西洋風のレンガと東洋風の瓦をうまく組み合わせた不思議な雰囲気。



一之宮貫前神社



富岡製糸場で働く工女たちも参拝したという一之宮貫前神社で旅の安全を祈願。参道は一度上ってから下るとい珍しい神社で、養蚕機織の神様も祭られています。



拜殿横で売られていた「無事かえる」がカワイイ!



倉賀野河岸の浮世絵 対岸に倉賀野河岸が描かれている浮世絵です。烏川には荷を積んだ船も見えますが、鉄道が開通するまではこんなふうに絹が積み出されていたんですね。 出典: [木曾街道六拾九次]の「十三 木曾街道倉賀野宿烏川之図」 所蔵: 国立国会図書館



まちなか周遊観光バス 富岡にはこんなカワイイ電動バスが走っています。100円で1日乗り放題!

が噴き出す風穴で蚕種を保管して孵化を遅らせることで、一年を通じて生産できるようになった。そして、養蚕農家で大切に育てられた繭は富岡などの製糸場へと出荷されていた。日本のシルクロードはこうした養蚕農家の庭先から始まっているともいえる。

水運から鉄道へと変化

明治初期まで、物流の主役は陸上と水運だった。利根川支流の烏川に設けられた倉賀野河岸は、上信越地方の交通の要衝で、年貢米のほか、多くの物資が江戸方面へと積み出されていった。小泉さんは語る。

「もちろん、生糸や絹織物、副蚕糸蚕種なども横浜に向けて大量に運ばれていましたが、1884（明治17）年に高崎線が全通して以降、河岸は急速に衰退していったのです。跡地には船に係留した石が残り、往時をしのぶ碑も建てられています。今ではすっかり草に埋もれていますね」

鉄道の整備は、群馬県と並ぶ大養蚕県だった長野県への路線でも進められた。標高差550mの難所、碓氷峠はレールのギザギザに歯車を噛み合わせて走るアプト式が採用され、1893（明治26）年に全通した。北陸新幹線の開業に伴い、信越線の横川―軽井沢間は廃止されたが、碓氷第三橋梁、通称「めがね橋」をはじめとした当時の鉄道遺構は今でも人気の観光スポットだ。

荒船風穴



木々が生い茂る標高差100mの急坂を下ってようやく風穴に到着。風穴から吹き出す冷風は、真夏でもひんやり。



元養蚕農家の富澤家住宅



富澤家では30歳までここにお住まいだった中澤久子(旧姓富澤)さん(左)とぼったり。1996年公開の映画『眠る男』の撮影舞台になったことを聞きました。その映画は、私の父、アート・デュリンスキーが映像特殊効果を担当した作品です。20年前、私のお父さんもここにいたんですね。すごい偶然！

碓氷峠「めがね橋」



山道を登っていくと突然目の前に現れる巨大アーチ。絹を運んだ鉄道橋も今は、遊歩道になっているそうですが、あの高さはちょっと怖いかも。

COLUMN

桐生の産業遺産で織物体験

群馬県東部の桐生市は、「西の西陣、東の桐生」と称される日本の高級織物産業の拠点だ。まちなかには多くの歴史的建造物が残されており、その多くが観光やまちおこしに活用されている。1919（大正8）年に建てられた金谷レース工業の旧工場もそのひとつだ。

織物工場には一日中変動が少なく、均一な明るさの光が得られる北側からの採光が適している。このため多くの工場がノコギリ屋根を採用しているのだが、レンガづくりで残されているノコギリ屋根は桐生でここ一棟だけ。1998年に国登録有形文化財に指定されている。現在はベーカリーカフェになっていて、パンとコーヒーを楽しむながら当時の雰囲気を楽しむことができる。



ベーカリーカフェ レンガ



ノコギリ屋根の形のフレンチトーストにニコリ。

カフェの奥にある絹遊塾 工房風花は初心者でも絹と遊べる工房だ。初めての人でも1日で絹のストールを織って首に巻いて帰ることもができる。桐生市ではほかに、草木染めやグッズの購入もできる。織物を体験することができる。



工房風花
体験工房で織の作業を体験しました。難しそうに見えただけ、やってみたら意外と簡単！

横浜エリア

長い間、欧米へ輸出された生糸の99%以上は横浜港から積み出されていた。シルク貿易の拠点だった横浜には、開港から150年以上たった今も当時の面影が各所に残されている。

近代日本と世界をつないだ港町、横浜を訪ねる

横浜開港で変化した絹の流れ

「横浜が開港したのは1859（安政6）年で、現在の太田橋入口の『イギリス波止場』を中心に開港場がつくられました。そこに入る橋に関所があり、港側は『関内』と呼ばれていました。開港場の北西側は日本人町、南東側は外国人居留地で、その1番地跡地に私が勤めていたシルクセンターがあります」と語る小泉さん。開港当時、欧州では蚕の伝染病が蔓延し、生糸不足に陥っていた。中国は日本以上の生糸の生産地だったが、アロー戦争などで上海貿易は停止しており、貿易商は高品質の日本の生糸を買い求めるようになった。「横浜で高く売れる」と評判になり、国内の生糸は一気に横浜に集まるようになった。それまで、西陣などに送られていた生糸は、年によ



鉄道創業の地
記念碑



これは気づく人が
少ないかも。

144年前、新橋ー横浜間に日本最初の鉄道が開通しました。その記念碑の下は車輪になっていて、てっぺんには汽笛のオブジェがありました。碑のすぐそばには葉書サイズほどの小さな「駅長室跡の碑」が。

吉田橋関門



海側の「関内」と陸側の「関外」を隔てる吉田橋は、いわばシルクロードの終点。ここに関門を置き、出入りを厳重にチェックして、開港場の治安を守っていました。

生糸検査所



「外国向けだからいいだろう」と粗悪な絹が持ち込まれることを防ぐために開設された生糸検査所は、地元の方から「キーケン」の愛称で親しまれています。

鉄柵が
蘭の形！



象の鼻

イギリス波止場に設けられた防波堤は長く伸びたその形から「象の鼻」と呼ばれていました。明治時代に賑わった象の鼻一帯は現在、公園として整備されています。

出典：「横浜海洋通之図」
所蔵：横浜開港資料館

area 3
hachioji

八王子エリア

埼玉や東京西部などで生産された生糸は八王子を経由し、陸路で横浜へと運ばれていた。「桑都」とも呼ばれた八王子周辺にも見どころが多い。

もうひとつのシルクロード
八王子からのルート

桑都に残る絹産業の面影

JR八王子駅に着いて最初に向かったのは北口のモニュメント「絹の舞」だ。「マルベリーブリッジ(桑の橋)」と名づけられたペDESTリアンデッキ中央の塔に絹織物をイメージした八の字があしらわれている。

駅から南に5km離れた鑑水地区には絹産業で栄えた当時の面影が残されている。小泉さんは「八王子市絹の道資料館は、生糸商の八木下要右衛門屋敷跡に建てられた博物館です。要右衛門の母屋は1884(明治17)年に移築され、現在は近くにある永泉寺本堂となっています。こちらを訪れた際にはぜひ見学してください」と見どころを説明する。

多摩ニュータウン開発から免れ、残された貴重な養蚕農家が小泉家屋敷だ。1878(明治11)年に建てられた入母屋づくり茅葺屋根の民家は裏山も含めて東京都の有形民俗文化財に指定されている。



八王子宿に集められた絹を運んだのが「絹の道」だ。横浜に至るルートは複数あり、そのうちの1つ、御殿橋のたもとから絹の道碑が建てられている大塚山公園までの区間は市の史跡に指定されている。

八王子と横浜を結ぶ道は起伏が多いので、馬の背に乗せて絹を運んだそうです。こういう道って、大好き。

絹の舞



右に並んでいるエレベーターは、東芝エレベーター製。八王子駅を利用する多くの人たちでフル稼働。

塔は八王子城を模したとのこと。



絹の道

絹の道資料館



絹を輸出するとともに西洋から新しい文化が入ってきました。絹の道は西洋文明の道だったのです。



小泉家屋敷



茅葺屋根の農家がまだ現役の住居として使われています。入口でハヤトウリが売られていました。



見たのは初めて! どんなふう料理するんだらう……。



石碑の文字が欠けてきているのが残念!



八王子道標

絹の道が大栗川を渡るところに建てられている八王子道標を見ていると、ご近所の方が「昔、あそこのおうちで絹を織っていらっやったのよ」と教えてくれました。

ては大半が横浜から海外に送られ、国内の絹織物産業が大打撃を受けたこともあった。

当初は水運・陸運が中心だった横浜への生糸輸送は、1872（明治5）年に新橋―横浜間の鉄道が開通すると、徐々に鉄道輸送へと切り替わっていく。1885（明治18）年までに前橋―品川間が全通したことで群馬と横浜が直結し、鉄道のシルクロードが生糸輸送の主役となった。

横浜に今も残る絹産業遺産

全国各地から持ち込まれる絹を取引するために建てられた施設は、今も産業遺産として横浜に数多く残されている。1896（明治29）年に発足し、絹の品質を検定した横浜生糸検査所（現在は横浜第二合同庁舎）は、関東大震災で被害を受けたが、1926（大正15）年に再建され、市民からは「キーケン」の愛称で親しまれた。検査所付属の旧帝蚕倉庫も歴史的建造物として横浜市に認定され、現在移築作業が行われている。

輸出を行う際には貿易決済が必要となる。貿易金融と外国為替に特化した横浜正金銀行の旧本店も明治を代表する洋風建築だ。現在は神奈川県立歴史博物館となっている。

「絹の輸出は昭和に入っても続きました。昭和5年に竣工した北太平洋の女王、氷川丸は、『シルクルーム』と呼ばれる絹専用の倉庫を備え、『シルクライナー』とも称されました」（小泉さん）。氷川丸は今も山下公園前に係留され、市民に親しまれている。



氷川丸

終着点は夕日を浴びた氷川丸。太平洋を越えていったシルクに思いを馳せながら小泉さんの説明を聞きました。



生糸商標

富岡製糸場が横浜生糸市場で培ってきた信用の証である生糸商標（大正期）。

所蔵：横浜開港資料館

横浜市開港記念会館

横浜正金銀行旧本店



日本初の為替専門銀行は、今は歴史博物館に。



岡倉天心の父親が支配人を務めていた福井藩の生糸販売商館・石川屋の跡地に建てられました。

COLUMN

衣料用から産業用へと広がる 高付加価値の新繊維



岡谷 雄士 氏 くにたちし
東京工業大学物質理工学院材料系教授

近年、繊維の用途は衣料用から産業用へと広がってきました。なかでもボーイング787など航空機でも使われている炭素繊維は日本のメーカーの得意分野で、今後は車のボディや近未来の宇宙エレベーターなど、用途がどんどん広がっていくと予想されています。

新しい繊維の開発手法は主に2つあります。1つは天然繊維の模倣で、代表的な初期の成果は絹の肌触りと強度を目指したナイロンです。もう1つは、高分子科学で強度の理論予測を行い、素材ベースで設計する手法で、ナイロンがその例です。ナイロンは金属以上の強度を持っていて、製作時に設定を間違えると、糸が切れるのではなく機械の方がダメージを受けるほどです。開発された繊維をどう使いこなすかも重要です。実はこちらが日本のメーカーの弱点になっています。しかし、ユーザーのニーズに合わせて新たなスペックの繊維を開発するような懐の深い体制をとることができれば、技術的なアドバンテージを活かして日本を支える産業になっていくのではないかと思います。



ザイロン

直径1.5mmで軽自動車を吊り上げられるほどの強度を持つ。耐熱・難燃性にも優れていて、コンクリート補強材、自転車スポーク、各種防護服、レーシングカーなどに使われている。

写真提供：東洋紡

物流の歴史的変遷 と将来像

東京海洋大学 名誉教授
流通経済大学 流通情報学部 教授
苦瀬 博仁氏



くせ・ひろひと●1951年東京生まれ。専攻はロジスティクス論。江戸時代以降の都市生活と物流の相互関係も研究している。1981年、早稲田大学大学院博士課程修了(工学博士)。同年、日本国土開発(株)入社。東京商船大学助教授、同大学教授を経て、大学統合により東京海洋大学教授。2006～2009年東京海洋大学理事副学長。2014年より現職。



◆東京名所之内新橋ステーション蒸気車鉄道図

貨物駅に運び込まれる荷物と貨車が描かれている鉄道錦絵。新橋—横浜間の貨物輸送の様子を示す貴重な資料。

所蔵：物流博物館

水運から鉄道へと変化した 貨物輸送

日本で全国規模の安定した物流が行われるようになったのは江戸時代です。それまでも長距離輸送はありましたが、安定供給にはほど遠いものでした。当時、物流の主役は水運でした。大型廻船が海岸沿いに大量の荷物を運び、河川を行き来する小舟が内陸部への輸送を担当したのですが、川にはどうしてもそれ以上進めない地点があります。そこは馬などへの積み替えを行う物資の集積地として栄えました。生糸の積み出しで賑わった倉賀野河岸もそのひとつです。

明治に入ると、富国強兵のもとで鉄道が建設されます。軍事面では沿岸拠点への路線が整備された一方で、主要輸出品の生糸を運ぶ路線が建設されるなど、経済面でも整備が進められました。日本最初の鉄道である新橋—横浜も貨物輸送が大きな目的のひとつです。当時、遠距離通勤をする人はいないので、生産地と都市圏、港を結ぶ鉄道路線は主に産業用として使われていたのです。

絹の産地を結ぶ両毛線も産業用路線の典型です。五街道(※1)を見るとわかるように、一般的に交通網は首都から放射状に整備されます。それに対して、両毛線のように地方を横断する路線は、まさに物資輸送が目的だったと考えられるわけです。

※1：東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道を指す。

物資だけではなく文化も運ぶ

近年、鯖街道(※2)など陸路の物流ルートも脚光を浴びています。しかし、これらは「物資を運ぶ」とともに「文化を運ぶ」という側面も大きいと考えられます。例えば、山形県酒田市のひな祭りは、京都の文化が伝わったものだと考えられますが、このように祭りや文化が離れた地域で花開くのは物流があつてこそ。文化は材料や商品が動くことで初めて形になるんです。

文化を突き詰めると神事になります。伊勢の遷宮などは、運ぶことがそのまま神事になっています。東大寺のお水取りもそうで、神事として「水の輸送」が行われています。

※2：福井県若狭地方と京都を結ぶ街道の総称。特に鯖が多く運搬されたため、鯖街道と呼ばれる。

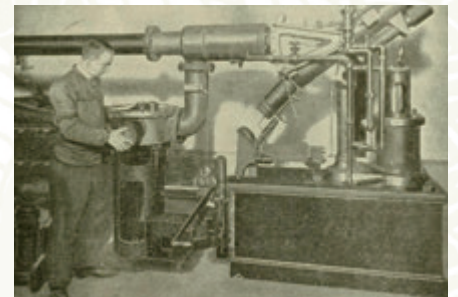
少子高齢化、災害対策、システム輸出が将来像を語るキーワード

物流の将来像を語るキーワードのうち、1つ目は少子高齢化です。現在、宅配は玄関ドアまで来ていますが、今後は部屋のなかまで荷物が届くシステムが考えられます。今でもケータリングなどのサービスは室内に入り込んでいて、介護を視野に入ると寝室まで食事を配達するのは自然なことです。海外では郵便配達に空気圧を利用した気送管が使われたこともありましたが、そういう時代が再び訪れるかもしれません。

2つ目は災害対策です。今、東京で直下型地震が起きると首都圏の3000万人が被災します。近所のコンビニを冷蔵庫代わりにしている人も多いのですが、物流が止まると食料も水もあつという間に枯渇します。災害に備えた備蓄や、建物の改修を含めた流通ルートの再整備が必要です。

3つ目はシステム輸出です。現在、日本のロジスティクス(※3)は世界でナンバーワンです。1日3回、コンビニにサンドイッチが配送されるのは、世界的にもとてつもないことです。こうした素晴らしいシステムをぜひ海外に輸出したいですね。

※3：原材料の調達から生産・販売に至るまでの物流の全体を最適化すること。



◆気送管システム

19世紀末に使われていた気送管システム(上が送受信機、下が郵便物を封入する容器)。ロンドンやニューヨークで郵便局の間などに張り巡らされていた。

出典："American Engineer, Car Builder and Railroad Journal" (1897年)





知ってるようで知らない!?

エレベーターの 不思議

便利な移動手段として、ふだん何気なく利用しているエレベーター。しかし、エレベーターの細部まで注意して見てみると、意外と知らないことが多いのではないのでしょうか。今回は、知っているようで知らないエレベーターの雑学をご紹介します。



乗り場の 不思議

一般的なエレベーターでは、かごと乗り場のすきまが1〜3cm程度空いています。万が一このすきまに物を落とした場合は、建物の管理者や所有者に連絡し、エレベーター管理会社の保守作業員に対処してもらってください。

「しきい間すきまレス」機能を業界で初めて開発。この機能を標準で搭載した最新機種ではこうした心配が少なくなります。



しきい間すきまレス



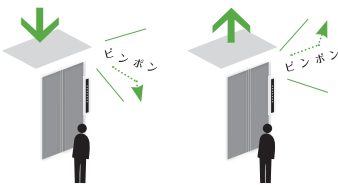
従来機種

Q かごと乗り場のすきまに鍵を落とした時はどうする?..

A ご安心ください。東芝エレベーターは、エレベーターに安心して乗り降りしていただくために、ドアが開くのとほぼ同時にすきまをふさぐ「しきい間すきまレス」機能を業界で初めて開発。この機能を標準で搭載した最新機種ではこうした心配が少なくなります。

Q エレベーターの上り/下りは、点灯したライト以外にも判別できる?

A エレベーターの上りと下りは、到着音でも判別できるようになっています。到着音は2音で構成され、2音目が1音めよりも高い場合は上り、低い場合は下りです。

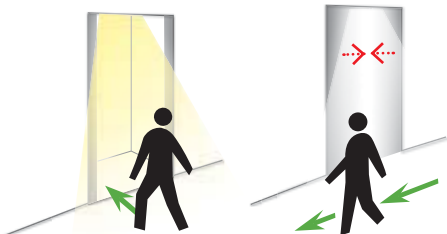


Q ドアが閉じかけたエレベーターに乗りうるとするとドアが開きますが、何を感知している?

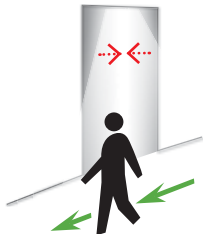
A ドアにはさまれる事故を防ぐために、エレベーターには「ドアセフティ」と呼ばれる機能が搭載されており、この機能は機械式と電気式の2種類があります。機械式は、閉じつつあるドアに人体などが接触することがドア反転の引き金になるのに対して、電気式はドアに組み込まれた赤外線センサーが人体などを感知し、閉まりかけたドアを再び開く方式です。

東芝エレベーターは、はさまれ事故を防止するこうした安全機構をさらに一歩推し進め、乗り場付近にいる人の動く方向を判定してドアの開閉を行う「スマートドア」を開発しました。「スマートドア」には先進の画像解析技術が活用されており、ドアに向かってくる人がいたら乗客と判断してドアを開けたまま待機するのに対して、ドアの前を素通りする人がいたら、通行人と判断してドアを閉めます。これにより、はさまれ事故を防止するだけでなく、エレベーターの停車時間を短縮して、効率のよい運転を実現します。

スマートドア



ドアに向かって歩いている人は乗車意思ありと判断し、ドアを閉めずに待機



ドアの前を素通りする人は乗車意思なしと判断し、ドアを閉める



凸文字ボタン
階数とボタン枠が盛り上がっているため、視覚障がい者でも押しやすい



液晶インジケーター
色覚の個人差を考慮した色が採用されている

A 視覚障がいのある方でもボタンを押しやすいように、最近のエレベーターには、階数とボタン枠を盛り上げた凸文字ボタンが採用されています。エレベーターは多くの人が利用しますので、誰でも使いやすくするために、ユニバーサルデザインが施されています。凸文字ボタン以外にも、例えば、操作盤にコントラストをつけたり、手すりに丸みをつけたり、液晶インジケーター表示の色を黄色系にしたりしているのもそのためです。

Q 操作盤のボタンの一部はなぜ盛り上がっている？



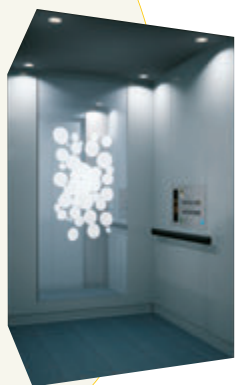
かご室の不思議

Q かが室の正面壁面に設置された大きな鏡は何が目的？

A 車いすを使用される方がエレベーターに乗り降りする際、出入り口付近の状態を確認できるようにするためです。かが室内が混んでいると車いすを回転できず、後ろ向きのままエレベーターを降りなければならぬことがあります。かが室の正面壁面に大きな鏡が設置されていれば、車いすを使用される方は、こうした時でも後方を確認できます。

東芝エレベーターは、このミラーのなかにモニターを設置し、さまざまな映像を浮かび上がらせてサインージとして利用できる「ミラーサインージ」を開発。映像にはいろいろな演出を加えられるため、エレベーターの利用者は乗っている時間を楽しく過ごすことができます（※）。

※2016年1月に販売を開始した標準形マシナールームレスエレベーター「SPACE ELEGANCE II」に搭載の有償付加仕様です。



ミラーサインージ
ミラーのなから映像が浮かび上がっては消えていく

Q 操作盤に鏡が設置されたエレベーターを見かけましたが、これは何のため？

A 操作盤の前に立たれた方が、振り向かずには背後を確認できるようにするためです。東芝エレベーターが開発した最新エレベーターにはこの鏡が標準装備されており、「広角ミラー付操作盤」と呼んでいます。

かが室の内部には防犯カメラが設置されている場合もあります。この映像は1週間程度保存され、マンションによってはこのカメラを通してかが室の様子を見ることができ



広角ミラー付操作盤

Q 知人のマンションを訪問したら、かが室の正面下部に扉があるのを発見しました。これって何ですか？

A ストレッチャー等を運搬するトランクスペースです。積載量600kg、定員9名の住宅用エレベーターには、これらの運搬スペースを確保するために、トランクスペースを設けることが認められています。

通常、トランクスペースの扉には鍵がかかっており、使用することはできません。しかし、緊急時には、解錠して扉を開ければ、エレベーターでストレッチャーを運搬することができます。

扉の鍵は通常、マンションの管理入室で保管されています。しかし、2003年10月以降の新設エレベーターでは、鍵がメーカを問わずに共通化され、救急隊員の所持する鍵で解錠できるようなっています。



トランクスペース

Q

かご内側面に設置された操作盤は、通常の操作盤と違いがある？

A 実は、ドアの開閉時間が異なります。かご内側面の操作盤は、車いす利用者が使用することを想定して設置されます。そのため、この操作盤のボタンを使ってドアを開閉すると、ドアの開閉時間が通常より長くなります。



通常の操作盤と側面操作盤

Q

映画には時々、かご室に閉じ込められた人が天井の救出口から脱出するシーンが出てきます。いざという時はそうやって避難できる？

A 乗用エレベーターの天井には、確かに救出口が設置されているものもありますが、現在は救出口がないものが多いです。救出する際は、天井の救出口を使用するより安全性の高い方法が取られるようになり、エレベーターを最寄り階まで動かし、乗降用のドアを人の手で開けて救出します。

天井に救出口があるものについては、外から鍵がかけられていて、かごのなかからは開けられないようになってい

ます。そのため、映画のように、この救出口から自力でかごの外に出ることはできません。こうした仕様になっているのは、救出口からかごの外に出て、エレベーター塔内に誤って転落する恐れをなくするためです。

万が一かごの外に出られたとしても、エレベーターの停止位置によっては塔内から脱出できない可能性があります。救助隊員かエレベーター管理会社の社員が到着するのをかご内で冷静に待ってください。

Q

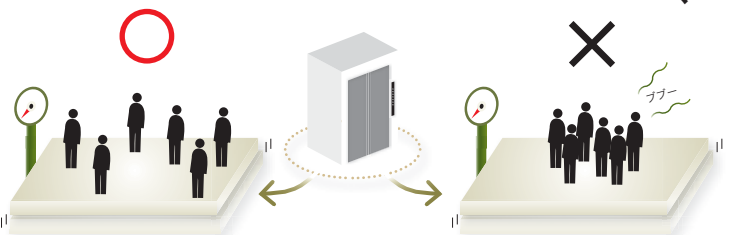
定員オーバーになるとブザーが鳴りますが、どういう仕組み？

A エレベーターの床下には、積載量を計測するセンサーが組み込まれていて、その上限を超えるとブザーが鳴る仕掛けになっています。エレベーターの床下は一種の巨大な「体重計」になっていると考えただけであればいいでしょう。

エレベーターには「〇人乗り」という定員が表示されていることがあります。しかし、この数字はあくまで目安に過

ぎず、正確には積載量でカウントします。そのため、センサーの周りに乗る人が偏っている場合などは、定員に達しなくてもブザーが鳴ってしまふことがあります。

一人あたりの重さは、当然、性別、年齢、服装、荷物などによってまちまちですが、日本では定員1人を65kgと見なして積載量の上限を定めています。一方、欧州では、定員1人を75kgでカウントしています。日本と欧州で一人あたりの重さの基準値が異なるのは、平均体重が違うからです。



同じ人々がエレベーターに乗っていたとしても、センサーの周りに偏って乗っていると、ブザーが鳴ってしまうことがある

Q

エレベーターの非常ボタンはどこにつながっている？

A 一般的には建物の管理入室につながっていますが、遠隔監視の保守契約を結んでいる場合は、エレベーターの状態を24時間、365日監視しているサービス情報センターとつながるようになっています。この場合は、異常や閉じ込めなどが発生しても、エレベーター管理会社の社員が迅速に対応することができ、エレベーターを安心してご利用いただくことができます。



東芝エレベータ 東日本サービス情報センター

映画に登場するエレベーターは
現実と別世界をつなぐ「夢の扉」



前田 有一氏
まただ・ゆういち
映画批評家

ディズニー映画「トゥモローランド」では、1964年ニューヨーク万博ディズニー館の「イツ・ア・スモールワールド」アトラクションが、未来都市トゥモローランドに直結しています。私は、映画における典型的なエレベーターの役割はこれだと感じました。キーワードになるのは「ドア」「テクノロジ」「未来」「非日常」などなど。それと比べれば、誰もが思い浮かべる「密室性」は、あまりにも表層的ですね。

多くの映画監督は、限られた条件のなか、どれだけ非日常的で、同時に絵空事ではない物語を描くかに心血を注ぎます。そのための仕掛けとして、エレベーターほど優れた道具はなかなか想像できないのではないのでしょうか。

少し考えてみれば、この機械がおそらく不思議な乗り物だということがわかります。一度閉じた扉が再び開くと、そこに現れるのは乗り込んだ時とはまるで別の空間、新しい世界なんです。一種の魔法のようなことが現実起こっている。そうでありながら、私たちは日常的に、そんな魔法をごく当たり前のこととして生活しています。

2012年の「トータル・リコール」には、地球の核を通過してオーストラリアとイギリスを直結する「ザ・フォール」というエレベーターが登場しますし、「スパイダーマン2」ではクモの糸を出せなくなったスパイダーマンが、地上に降りるために一般人とエレベーターに乗るシーンがありました。つまり、この「魔法の箱」はスーパーテクノロジと日常生活のどちらにも、まったく同じように存在しているわけです。そんな小道具が、映画監督たちの想像力を強烈に刺激するのは当然。だからこそ、この機械は実際、本当に多くのごそというシーンに使われています。

移動手段であるエレベーターが映画のなかでつないでいるのは現実と別世界。それは間違いなく「夢の扉」なんです。

3

の議 点検 定期 不

Q エレベーターの保守作業者は、定期点検の際、何項目ぐらいチェックしている？

A エレベーターの点検は一般的に、遠隔監視・診断と専門の保守業者による定期点検の組み合わせで行われており、定期点検時のチェック項目は約400点にも上ります。東芝エレベーターは、点検作業の効率化と運転停止時間の削減を図るために、点検作業の一部を、かごの各部に設置したセンサーに代行させる技術を開発。複数のセンサーから収集したデータを

もとに、エレベーターの正常／異常を総合的に判別しています。

また、定期点検の報告書によりスピーディに作成するために、音声認識システムも開発しました。これは、保守業者が音声で点検内容や状況を録音すると、文字に変換されて保守管理システムに送られ、定期点検報告書を自動で作成できるシステムです。



4

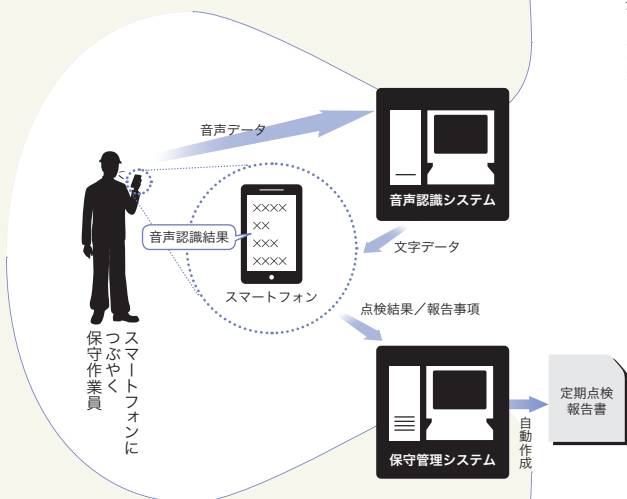
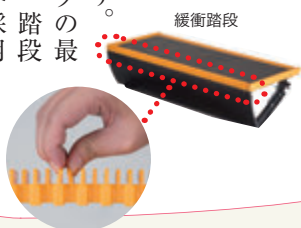
の議 思 不

Q エスカレーターは、だいたいどれぐらいの速度は、

A 実は、エスカレーターは、速度は国土交通省告示に定められており、勾配が8〜30度以下の場合で分速45m以下です。法律の範囲内であれば、速度は自由に設定できますが、この勾配では通常分速30mに設定されています。ただし、急ぐ人が多い駅のエスカレーターでは、インバーター制御でより高速に設定さ

れていることがあります。

なお、東芝エレベーターの最新エスカレーターには、階段の先端角部に緩衝素材が採用されています。利用者のけがの軽減や重篤化の防止が目的ですが、階段の上に立ち止まり、手すりをしっかり持つていただくことが一番の安全対策なので、その点にご留意ください。



お江戸の 楽しい 歩き方

第4回

神楽坂周辺



門人 & 文 師 匠

地図研究家
芳賀啓さん

タレント/歴史作家
堀口茉純さん
(愛称…ほーりー)

はが・ひらく・1949年生まれ。東京の古地図や地誌の研究者で、東京経済大学客員教授。テレビ朝日「タモリ倶楽部」などのテレビ番組にも出演。主な著書に『江戸の崖 東京の崖』講談社『古地図で読み解く 江戸東京地形の謎』二見書房など。

ほりぐち・ますみ・1983年生まれ。2008年に江戸文化歴史検定一級を最年少で取得し、「江戸」に詳しくすぎるタレントII お江戸ル(お江戸のアイドル)として知られる。主な著書に『TOKUGAWA 15』(草思社)、『UKIYO E 17』(中経出版)など。

① 牛込見附跡



【壺】上州道の一部でした。江戸城田安門が起点で、牛込見附が玄關口になり、神楽坂を通って前橋のほうに続いていたと考えられます。

② 軽子坂



駅のすぐそばで見附と外堀の遺構が見られるなんて！道行く人は誰も気づいてない様子。

【貳】全国から運ばれや酒が荷揚げされていた神楽坂よりも歴史は古いんだそうですよ！



本日の
お題

- 壺 神楽坂は何道の一部分？
- 貳 軽子坂は何を上げていたの？
- 参 袋町の袋って何？

③ かくれんぼ横丁



「和可莖」はホン書き旅館の異名があり、野坂昭如さん、山田洋次さんなどが缶詰になって脚本を書いた場所。残念ですが、現在は閉館しています。



お洒落な町でよく見かけるこの石置の石は「ピンコロ石」と呼ぶそう。かわいい名前ですね。

飯田橋は舟運の ターミナルだった

今回のスタート地点のJR飯田橋西口近くにある牛込見附跡の石垣は江戸時代の遺構を身近に感じられるポイント。私も大好きでしげしげと眺めていたのですが、「もっと面白いものがあるよ」と師匠。つい行ってみると……わっ！こんなところに段差のある水路が!? これは江戸城外堀(神田川)の余り水を落とすための場所。ここを境に上流は堰き止められたダム状になり、下流では舟運が行われていて、隅田川方面から江戸の山の手エリアに物資を供給する最終拠点のような場所だったんですって。

荷揚げ場だった場所に立つ「牛込揚場跡の碑」や物資を町へと運ぶ道「軽子坂」が残っていて、当時の活気を伝えています。何度も遊びに来ている場所だけど、知らなかったなあ。神楽坂エリアにある、御座敷が多い「かくれんぼ横丁」はしつぽりとした雰囲気、花柳界の風情が感じられます。

歴史と地形から見た 神楽坂

神楽坂の地名の由来は「御神楽が聞こえる坂」ともいわれていますが、確かに由緒ある神社

坂の下は屋根船の発着場所になっていて、夏目漱石もここから遊びに出かけたとか。

4 寺内公園



隠れ家風レストランでランチ。師匠、まじめな顔をしてますが、相当お気に入りの御様子でした。美味しかったです。



神楽坂



江戸時代に盛り場として賑わった行元寺(きよがんじ)が神楽坂花柳界の発祥といわれています。お寺が移転しても「寺内」の名は残り、現在は公園に。

8 赤城神社



「急傾斜地崩壊危険区域」なんて聞くと「危ない場所なの？」と心配になりますがきちんと整備されているので大丈夫。



境内脇にある「俳人巻阿(かんあ)の碑」に刻まれた句を見て「まあまあだね」と師匠、私にはよくわかりません！



7 光照寺



光照寺の周りを歩いてみると高台になっていたり、高台にわたり、中世の牛うなずける地形でした。

【参】 行き止まりの碑になって通り抜けできない地形のこと。光照寺のあたりが袋町で、矢田津世子の小説『神楽坂』にも出てきます。

5 毘沙門天善國寺



神楽坂の賑わいの中心にある善國寺。江戸三毘沙門の随一として庶民から絶大な信仰を集めました。

6 地藏坂



古民家風の佇まいの鍼灸・温熱治療院「エコパオ」には、はやりの足湯カフェが併設されていました。



本殿脇には毘沙門天ゆかりの「狛虎(こまこ)」が鎮座！

台座には明治初期にはイギリシ式の測量を示す几号(きごう)が刻まれていました。

仏閣が多いエリア。毘沙門天でおなじみの善國寺、中世の牛込城跡と伝わる光照寺など見どころ満載です。

なかでも面白いのは赤城神社。とにかくスタイリッシュでモダンなんです！ 御社殿や神楽殿はもちろん、カフェや集合住宅まで境内にありました。聞けば今話題の建築家、隈研吾氏監修なんだとか。これが実は700年の歴史を持つ神社なんて一見信じられませんが、伝統を守りながら時代の流れに順応し、人々に親しまれてきたからこそ現在まで続いているんだなあとお納得。

すると、「驚くのはまだ早い」と師匠。境内の裏手側に回ると「急傾斜地崩壊危険区域」の看板が。東京23区内に7カ所しか存在しないレアな崖が見られる場所なんだそうです。足元を見るとビックリするような断崖絶壁！

東京屈指のお洒落な町として注目されている神楽坂ですが、歴史と地形という視点で見ると、新たな発見があつて面白いですね。

今回の締めの一句

軽子坂これから上る下り酒

爽やかな風にさそわれ神楽坂



異国の目から

ニッポン

見た

① イスラエル編

✈ イラン・ヤニツキーさん

墨絵画家・書道家



Ilan Yanizky ● 1955年イスラエル生まれ。6歳よりイタリアに暮らす。ローマ・アート・アカデミーで美術を専攻し、ロンドン遊学を経たのち、テルアビブ・アート・スクールで美術を学ぶ。1983年に来日し、山田耕雨師に墨絵を、真木蘭臺師に書道を師事。雅号は「伊嵐」。南画院賞、南画院東京都知事賞を受賞。2001年に日本の永住権を取得。



今の時代の墨絵を描く 異色の絵師

運命を変えた1冊の雑誌

異国の人であるからこそ、私たちが意識していないところに新鮮な眼差しを注ぎ、それゆえに彼らの視線は私たちに日本を再発見させてくれる。イスラエル人の墨絵画家ヤニツキーさんもその一人だ。
墨絵を知らない人は日本人ではないだろう。しかし、知っていても、しよせん中国伝来の昔の絵と捉えている人が多いのではないか。

「日本で南画と呼ばれる独自の発展を遂げた墨絵は古いといわれますが、そんなことはありません。雪舟や伊藤若冲など、今見ても素晴らしいものがたくさんあります。私は彼らと同じようには描きませんが、その精神を受け継いで、今の時代だからこそ描ける墨絵を目指しています」

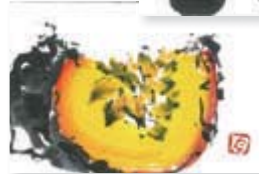
芸術好きの母親の影響で、小さい頃から絵が好き

イスラエル / 基礎データ



聖都エルサレム

- 面積…約2万2000km²(日本の四国程度)
- 地理…国土の西側は地中海に接し、南北に細長い(約470km)。地中海沿岸の平野部は肥沃な農耕地帯で、雨季と乾季に分かれるが、国土の南部には広大な砂漠が広がる。
- 言語…ヘブライ語、アラビア語
- 交通…主な交通機関は自動車、バス。ほかにエルサレム、テルアビブなどの主要都市を結ぶ鉄道路線があり、エルサレム市内には路面電車が走っている。



ヤニツキーさんの作品(左上、左下)とふだん使っている道具(右)。



奥深い墨絵の世界

「雑誌の日本特集を見て、不思議な感覚を抱きました。芸者、舞妓、新宿の高層ビル……こんなもの見ることがなかった。最初は、少しでもこの国を見てみようという軽い気持ちでやって来たんです」

実は、ヤニツキーさんが日本を訪れた理由はもうひとつある。どうせ日本に行くなら、以前何かで見たことのある墨絵を学ぼうと思った。最初は、3カ月も学べばマスターできると思っていたヤニツキーさんは、アルバイトで語学を教えつつ、南画院の山田耕雨師のもとで墨絵を学んだ。

最初に師からいわれたのは、「蘭を描いてごらん」だった。油絵の経験を積んでいたので、簡単に描けると思った。

だがやってみると、墨絵の世界はまったく勝手が違っていた。どうしても思いどおりに描くことができないのだ。ヤニツキーさんは持つて来ていた油絵の道具をすべて捨て去り、西洋画と決別した。以来、ひたすら蘭との格闘の日々。どうにか蘭が描けるようになると、次に待っていたのは竹だった。こうして月日は流れていった。

さらには書道も学び、墨絵は東京都知事賞を受賞するまでに上達したヤニツキーさんは、今では自分で墨絵アート教室を開くまでになった。

「墨絵の世界は奥が深く、どこまでも終わりがありません。毎日が発見の日々です」

かつて私たちの文化のなかに確かにあったはずのものが、気づくと失われていることが多い。古いと思われがちな日本文化もヤニツキーさんの視線に重ね合わせて、もう一度じっくりと味わい直してみることで、私たちに新たなクール・ジャパンが発見できるかもしれない。

イスラエルと日本の都市はここが違う！



イスラエルはヨーロッパと同様、古い街並みを残そうという伝統があるのに対して、地震の多い日本は、新しいものを求める傾向にあるように感じました。日本独特で面白いと思ったのはプレハブ住宅です。簡単にできて、地震にも強いのはすごいと思いました。

最近イスラエルも高層ビルブームですが、以前は高いビルはありませんでした。今後は変わっていくでしょうが、エレベーターもまだ大したものはありません。その点、日本のエレベーターは速いし、きれいだし、冷暖房が完備されていて快適です。エレベーター・エスカレーターが街のあちこちにあるのも便利です。私も年をとってきたので、これはとてもありがたいですね。



イスラエル経済の中心地、テルアビブの街並み。エルサレムと比べて新しい都市で、超高層ビルも立ち並ぶ。

がんばる 地方都市

第11回

青森県 青森市



青森市つ
てこんな
ところ

- 人口：約29万人
- 面積：824.61km²
- 概要：青森県のほぼ中央に位置する県庁所在地。江戸時代より本州と北海道をつなぐ交通の要衝として発展
- 特徴：県庁所在地のなかでは唯一、市の全域が国から「特別豪雪地帯」に指定されている。中心市街地に7つの商店街があり、新町商店街が最大(長さは880mあり、日本でトップクラス)
- 特産品：りんご、カシス、ホタテ、ナマコなど



TOPIC

青森市には、自転車で気軽にまち巡りを楽しめる「まちなかレンタサイクル」がある。実施期間は4月下旬から10月下旬で、1回300円で自転車を貸し出してくれる。貸出場所は中心市街地内に6カ所あり、急に重い荷物を運ばなければならなくなった市民の足としても利用されている。

全国のまちづくりを 応援するパイオニア

今回の
キーパーソン
加藤博さん
かとうひろし

有限会社P.M.O (Passage Management Office)
代表取締役社長

まちづくりでは、リーダーが何人もいては、喧嘩になって話がまとまりません。かといって、リーダー一人が一生懸命頑張る、ほかの人々がそっぽを向いていても、まちづくりはうまく進みません。リーダーを育てていく環境、リーダーが頑張っている環境をつくっていただきたいと思います。



まちづくりこそわが天命

「加藤さん、こんにちは」
「あっ、加藤さん！」

加藤博さんが青森市にある新町商店街を歩いていると、店主の誰もが親しげに声をかける。まちのためであれば、幅広い人脈を駆使して資金集めを行い、皆が納得できるように話をまとめる。新町商店街の人々にとって、加藤さんはとても頼りになる存在なのだ。

東北ニチイ八戸店長を務め、新町商店街に移ってきた加藤さんがまちづくりに関わり始めたのは1988年。以来約30年間、青森市の中心市街地活性化を先導するとともに、全国でまちづくりに携わる人々を応援してきた。今も月に1週間は、まちづくりに関する

講演や会議で全国を飛び回る「まちづくりのカリスマ」。何が加藤さんをそこまで駆り立ててきたのか。「お金がもらえるから頑張るんだ」と陰口を叩く人もいましたが、結局、好きだからやってきただけです。汗を流して頑張っている人が大好きだし、人前で話すのも大好き。いろんな人が集まる商店街の雰囲気も好きなんですわね」

津軽なまりが混じる、大きく張りのある加藤さんの声には、意志の強さと、頑張っている人を全力で支える優しさがにじみ出ている。

まちづくりで重要なのは 連携と協力

加藤さんが初めてまちづくりに携わったのは、商店街の若手がつくれた「新町の将来を語る会」の



藤谷浩介の ここがポイント!

政治家でも商店主でも企業家でも学者先生でもない。ですが、その誰よりもまちに深い愛情を持ち、日本初のコンパクトシティ構想制定から多くの再開発の実現まで常に黒子として全身全霊で青森のまちづくりを支える加藤さん。私もその高潔で温かい人柄を慕う一人です。



新町商店街の通りに面した市民の憩いの場「パサージュ広場」。広場に面した店舗は、中心市街地で開業を目指す商業者に貸し出されている。事業運営者はPMO。



JR青森駅前にある複合商業ビル「アウガ」。「商業だけでは中心市街地を活性化できない」と考える加藤さんは、1~4階の商業フロアに市役所を誘致することを提言。市でも検討が始まっている。



車道の幅を2m狭めてつくられた自転車道。タクシーの運転手など、猛反発する人も多かったが、加藤さんは粘り強く説得した。



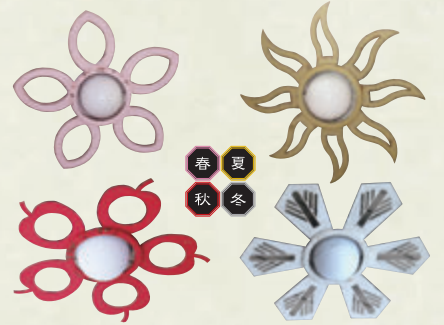
「パサージュ広場」にある居酒屋「旬菜タバス」のオーナー・店長の倉内俊広さん。地元の人にも大人気!



新町商店街のほぼ中央にある洋菓子&カフェ「CHANDOLA」。2階にあるカフェの内装はゴージャスで、青森産のりんごを使ったスイーツは絶品!



新町商店街に整備されたベンチと水飲み場。ベンチは100mごとに設置され、シニアでも商店街の散策をゆっくりと楽しめる。



新町商店街のアーケード天井にある照明。街区ごとにデザインが異なり、春(桜の花びら:左上)、夏(太陽:右上)、秋(りんご:左下)、冬(雪の結晶:右下)を演出している。



しんまの逸品

「リケン洋食器店」は加藤さんの先導で始まった「一店逸品運動」に参加している。二代目店主・田中恵さんの今年のイチオシは「佐渡製竹の盆ザル」!



もたに:こうすけ◎日本総合研究所 主席研究員。日本の全市町村を訪問し、地域特性を多面的に把握。登壇・出演・寄稿等は年間1300件を超える。著書に『里山資本主義』『しなやかな日本列島のつくりかた』など。

「雪を自動的にとかすアーケードをつくらうとか、お金のかかる夢物語ばかり話題になって……。ある日腹が立ち、「実現できないことを話し合っ、まちがよくなるのか!」と声を荒らげました」

加藤さんを中心とする会の仲間がまず着手したのは新町商店街のコンセプトづくりだった。自分たちが望むまちのイメージを共有しなければ、まちづくりの方向性が定まらないからだ。1年かけて議論し、「人と緑にやさしいまち」というコンセプトを生み出した。

「このコンセプトをもとに段差の解消や自転車道の設置などを行いました。事業が完了したのは1997年で、当時は画期的だったと思います」と加藤さんは語ると、加藤さんはこれまで、強い信念を持って青森市のコンパクトシティ化を推進してきた。行政、病院、学校など、生活に必要なさまざまな機能がまちなかにあれば、歩ける範囲で用事を済ませられるし、行政コストも削減できる。加藤さんによると、もうすぐ大型病院が駅前に移転してくるそうだ。

「まちづくりは行政トップが中心市街地活性化を政策に組み入れ、商業者、行政、商工会議所が連携して、まちなかに人を呼び込むことが大事です。その点青森市は三

者が連携・協力できた。ありがたいことです」と加藤さんは語る。

後続ランナーのために

加藤さんが現在全精力を傾けているのは、青森市にまちづくり会社を設立することだ。青森市では従来、商店街振興組合がまちづくり会社の機能を担ってきた。

「でも今後は、人口や店舗数が増えます。減少し、商店街はかつての力を失っていきます。それに代わる組織として、まちづくり会社が必要なのです。今年、商工会議所に提案した提言書の審議が終了したので、近い将来青森市にもまちづくり会社ができると思います」と微笑みを浮かべる加藤さん。

まちづくり会社がない地域ではこれまで、熱意のある有志がボランティアでまちづくりを担ってきた。しかし、加藤さんは、自分の仕事と並行してボランティアをするのは長続きしないという。

「まちづくり会社があれば、まちづくりの専門家であるタウンマネージャーが職業として成立し、給料で生活できるようにする。今の私にとって、それを設立・運営するのが最大の仕事だし、最後の『ご奉公』だと思っています」

加藤さんは今日も、全国にいるまちづくりの仲間と協力して、精力的に活動しているに違いない。

りんごのヴェール

【特定原材料】卵・牛乳



お取り寄せは、こちらから <http://nature-aomori.com/>

なめらかなプリンを口に入れると、ほのかにりんごの香りが漂い、瓶の底にあるピューレからは、爽やかなりんごの味が口いっぱいにはびろがる。そんな極上の逸品が、今回の「りんごのヴェール」です。

この商品を誕生させたナチュラル青森のオーナー工藤真義さんは、公園などを設計する建築家として活躍後、10年前に夢であった居酒屋をオープンさせたという経歴の持ち主です。

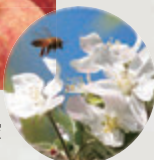
居酒屋に来店される常連のお客様からの勧めで、あおもり産品販売促進協議会が主催する「青森市新作スイーツコンテスト2012」に応募し、見事優秀賞を受賞しました。

「大切な人に贈れる、青森県を代表するお菓子をつくりたい。という思いで、納得のいく素材を求めて、1年以上探し回りました」という工藤さん。惚れ込んだ素材は、八甲田山系の雪解け水で育

てた成田農園の「葉取らずりんご(サンふじ)」と、りんごの花の蜜だけを集めた東養蜂場の「青森りんご蜂蜜」でした。

酸味の配分を調整しながら、これらの素材の美味しさを最大限に活かせるよう、味のバランスを追求したという工藤さんは、「試作品だけで、100種類以上つくりました」と当時の苦労を樂しむように微笑む。

「この商品が一人でも多くの人に知られることで、青森の生産農家さんと一緒に大きくなっていくといいな」と語る工藤さんは、青森の活性化にも大きな役割を果たしています。



こだわりぬいた、りんごとりんごの花からだけの蜂蜜

ここがポイント

プロから、ひと言！

とってもリッチな味わいのプリンですね。なめらかで濃厚で、一口ずつゆっくり、ゆっくりと味わいたくありません。

そして、スプーンを進めていくとりんごのピューレに出会うのがとても新鮮です。蜂蜜の風味がしっかりと感じられます。真っ赤なりんごを彷彿させるパッケージもプリンの容器もセンスがよくて、大切な方への贈り物にぴったりですね。

料理研究家
フードコンサルタント
上村 泰子氏



かみむら・やすこ
フード・アイ代表。企業やレストランのフードコンサルティング、メニュー開発に長年従事し、新聞、雑誌、講演会などでも活躍。著書や監修本は60冊以上ある。簡単にヘルシーな料理提案と親しみやすい解説で人気を得ている。



パッケージも工藤さんのデザイン